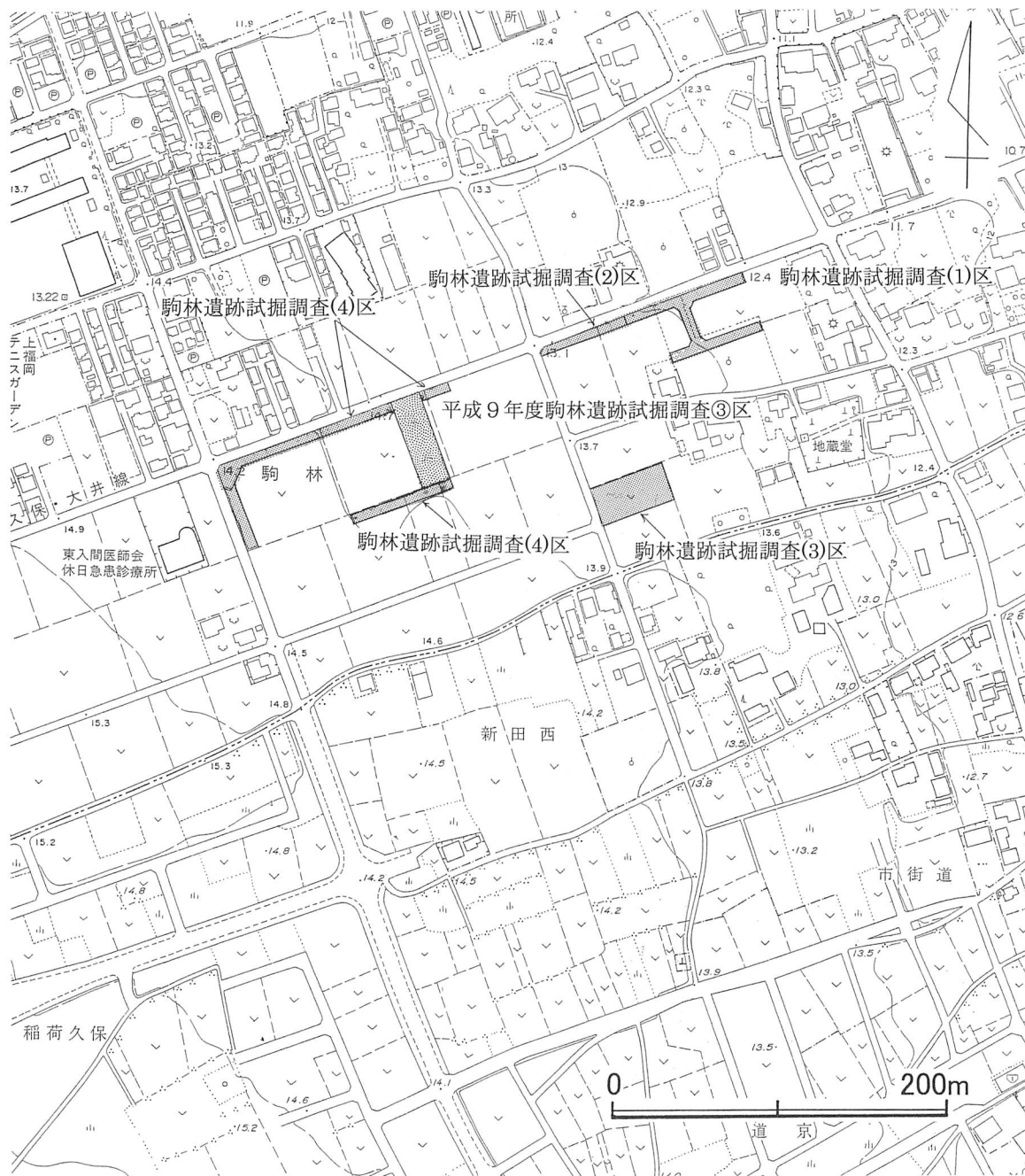


15 長宮遺跡試掘調査(3)	中丸 1 - 1 - 5	622 m ²	宅地造成(土地分譲)	9/3~11
16 松山遺跡試掘調査(6)	松山 2 - 6 - 5	147 m ²	個人住宅建設	9/9
17 長宮遺跡試掘調査(4)	長宮 1 - 3 - 31	362.19m ²	地区計画道路敷設	9/20~25
18 駒林遺跡試掘調査(4)	駒林字新田前280~ 282-2, 290, 292-1~298	1,150 m ²	区画整理予定地	11/11~27
19 北野遺跡試掘調査	北野 1 - 3058 - 1, 3114 - 1 の一部	100 m ²	公園歩道設置	11/28, 29



第1図 遺跡位置図 (1/15000)



第18図 駒林遺跡試掘調査区位置図 (1/4000)

XII 駒林遺跡の試掘調査(1)

所在地 駒林新田前238,
240～242-1の一部
原因 土地区画整理に伴う道路新設調査
調査面積 650㎡
調査期間 H14.6.3～21
調査担当 柳沢健司
出土遺物 なし
遺構等 溝1条



駒林遺跡試掘調査(1)
第1T、第2T表土除去作業風景(東より)

樹園であったため、10cmほど現況地表面が高くなっている。表土除去、ローム面の精査を開始した。6月12日、第3、第4 Tのローム面精査、レベリングとともに幅幅1.5mの第5、第6 Tを設定した。

第3、第4 Tでは、ローム面が第1 Tや第2 Tに比べて20cm高いレベルで確認された。13日、第5、第6 Tの表土除去、ローム面精査を行うとともに第3 Tの埋め戻しを行った。「エ」の字形調査区の上の横棒である駒林原通線拡幅部分に対し、トランシットをもちいて第3 Tから90° 東方へ振って第7、第8 Tを設定した。第6 Tにて第3 Tと変わらない深さでローム面を確認することができた。第7、第8 Tでは、15～20cmほどで西方から東方へローム面が傾斜している様子がうかがわれた。14日、第7、第8 Tの東端部で溝を確認した（溝8）ので、拡張作業を開始した。溝の部分以外は埋め戻しを行った。19日、第9、第10 Tを設定し、表土除去、ローム面精査、レベリングを行うとともに、溝8の覆土除去作業を行った。21日も溝の調査の続きを行い、平面図作成の後、埋め戻して器材を撤収した。

◆溝8

確認面にて幅3 m40cm、底面にて幅1 m40cmの壁面立ち上がりが確認面にて外反する断面が逆台形に近い溝である。深さは、確認面から1 m70cmに及んだ。底面付近の覆土は、ローム粒子やロームブロックを多量に含んでいたため壁が崩れたもので、その後、ゆっくり暗褐色土や黒褐色土が溜まっていったものと推察される。鉄分や砂質の土が覆土にみられなかったため、水路の可能性は薄いと思われる。時期は不明である。

XIII 駒林遺跡の試掘調査(2)

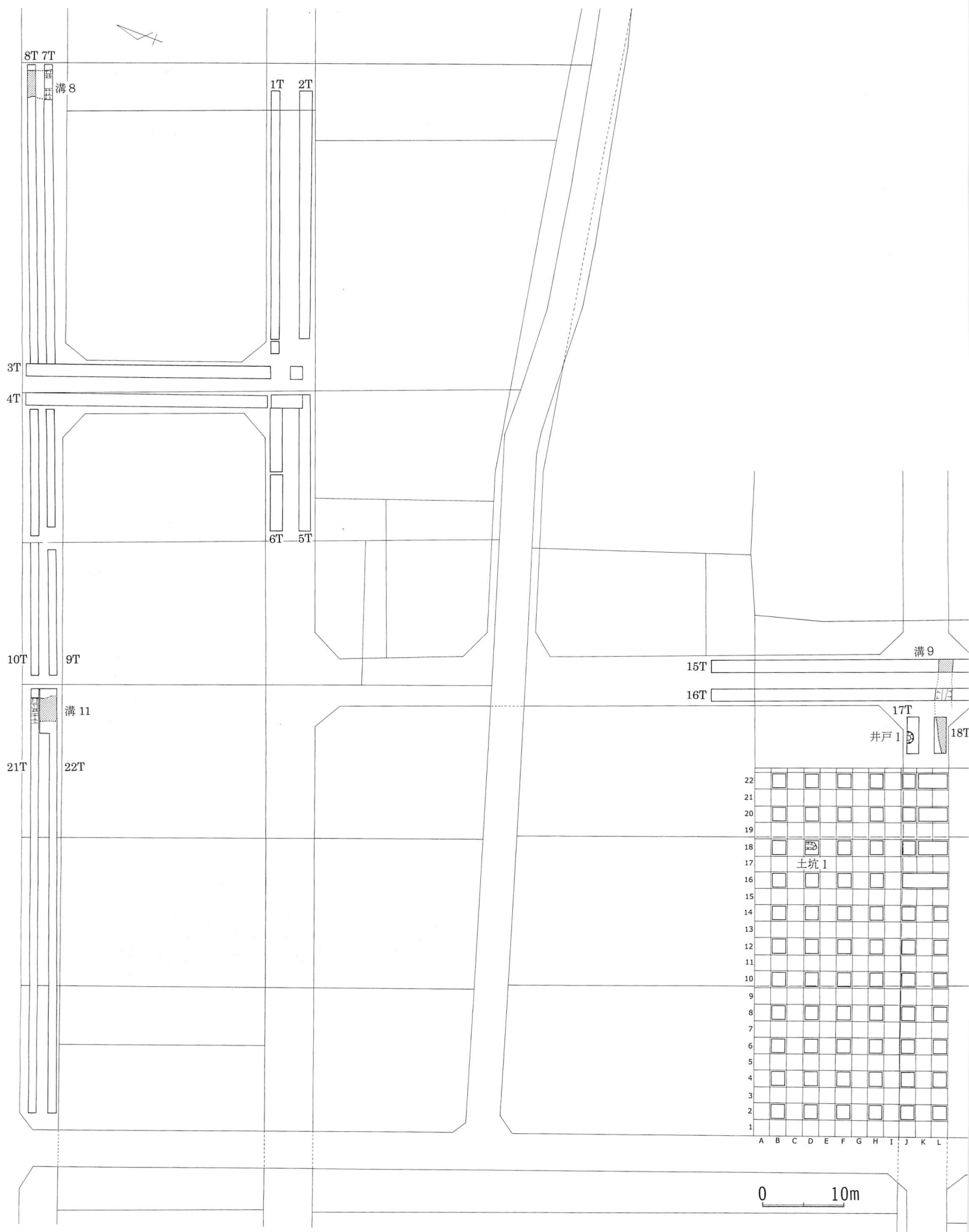
所在地	駒林新田前243～245
原因	土地区画整理に伴う道拡幅
調査面積	275m ²
調査期間	H14.8.9～30
調査担当	柳沢健司
出土遺物	なし
遺構等	溝1条



駒林遺跡試掘調査(2)第21 T 調査風景（東より）

今回の調査区の位置は、平成9年5月に溝3を検出した試掘調査区②の道路を隔てて南側で、標高は、13mである。

8月9日、北西端土地境界杭を基準に現県道東大久保・大井線との境界線に平行に1 m離して1 mトレンチをさらに1.5m離して南側に平行に1 m Tを設定した。表土除去、ローム面精査を行い、トレンチ東端部で溝を確認した（溝11）。北西端土地境界杭より50mの地点である。12日にトレンチのレベリングを行うとともに、第21 Tの溝の覆土除去作業を行った。都合により一旦埋め戻しを行い、29日より調査を再開し、溝11の該当する部分の拡張を行った。図示したように道路から離れた第22 Tまで続いていることが



第19図 駒林遺跡試掘調査(1), (2), (3)区全測図 (1/600)

判明した。写真撮影及び実測をおこない、ただちに埋め戻した。

◆溝11

確認面で幅約3m、深さ1mの断面がゆるやかなV字状を呈する溝である。底面の幅は30cmほどであった。覆土はロームブロックを含む黄褐色土が主で、遺物はみられないものの新しいと思われる。溝3に比べ幅は1m、深さも1m異なり、プランも貧弱なため、おそらく屈曲しているわけではなく、別の溝と推察される。



駒林遺跡試掘調査(2)溝11プラン確認状態（北より）

XIX 駒林遺跡の試掘調査(3)

所在地 駒林新田前262-1, 263, 264の一部

原因 土地区画整理に伴う道路新設
及び調整池工事

調査面積 1,120㎡

調査期間 H14.8.30～9.19

調査担当 柳沢健司

出土遺物 なし

遺構等 土坑1基



駒林遺跡試掘調査(3)表土除去作業風景（西より）

調査区の位置は、平成9年5月に溝2を検出した試掘調査区①の東方50mの標高14m弱の地点にあたる。

8月30日、北西端土地境界杭と北側土地境界線を基準に東へ向かって1～23区、南へ向かってA～M区で2mグリッドを設定した。第2区列から東へ向かって1区おきに表土除去、ローム面精査を行った。9月10日、埋め戻しを開始する一方で、7月に市単独事業として調査を行った際、東西方向に走る溝（溝9）が確認されていたため、その延長を確認するため、16区～22区までK区列部分の表土を図示したように除去し、南北6mのトレンチが4本並列する状態になるよう試みた。しかし、溝9の延長部分は、ついに検出できなかった。D-18区で、東西40cm強、南北1m30cmを超える土坑を確認したが、遺物が確認できず時期が決定できなかった。9月19日で、埋め戻しを完了し器材を撤収した。



駒林遺跡試掘調査(3)
土坑1完掘状態（西より）